

# まきとの 映画でアジアと つながろう！



中橋真紀人 なかはし まきと  
映画プロデューサー

## ◆「つながり映画祭」に、本邦初公開作品が多数登場！

今年も12月5〜7日に「つながり映画祭」が開催される（詳細は、12月号巻末を参照）。そこでは、これまでの取り組みの脈脈を生かしてアジアの優れた作品を借り受けるので、本邦初公開<sup>1</sup>が登場する。

台湾からは、「障害者映画祭」から『眞愛生命』―筋ジストロフィーの女子学生がカメラを手に患者の生活を追う姿を描くもの。

特別企画には、新北市政府文化局のご協力で、運営する記録映画ミュージアム「府中Fuzhong15」が保有する新作3本が新たに日本語字幕を付けて登場！

自閉症の息子とその父親の、愛情と葛藤の日々を描く『築巢人』、小児マヒで足が不自由な女性と刑務所から社会復帰した男性が夫婦で福祉活動に生きる姿を追った『秋香』、そして、難病の子をもつ父親6人のロックバンドの活動と果敢な音楽祭への挑戦を描く『一首搖滾上月球』。3番目の作品は地元の映画祭で観客賞や音楽賞を獲得しているもので、多いに期待している。

そして、次の週の12月13日前後には、新北市の予算により、この施設で「つながり映画祭in台北」（心手相連影展<sup>2</sup>と表記）が開催され、私たちも参加する。日本の作品上映とトーク（座談<sup>3</sup>と表記）でさらなる交流が期待される。



「一首搖滾上月球」に登場するオヤジ・バンド！



台湾はフルーツ天国。新鮮なジュースが飲める。

9月号で紹介したモンゴルからは、途上国での厳しい条件で暮らす車椅子の青年の自立した生活を追った『アマルバットの一日』が、在日留学生たちの協力で登場する。モンゴルの映画、しかも障害者問題―日本で初めてではないだろうか。また、今春に公開されて話題となった、盲ろうの夫と脊椎障害の妻が多様な方法でコミュニケーションをとりつつ仲睦まじく暮らす姿を描く韓国の記録映画『渚のふたり』も上映する。

歴史や言葉は違えども、障害者を

めぐむる状況は似ている…。当事者や家族が抱える思いが画面の中から確かに伝わってくる。画面に登場する様々なものを通して文化の違いを知り、異なる発想から学ぶことは多い。ユニークな活動をとおして発揮されるパワーが海を越えて勇気を与えてくれる。文字や写真よりも深く強く響いてくると、映画の人間として確信している次第である。

1 台湾の作品の題名を漢字でみても意味が分からないが、英語表記だと何となく感じがつかめるよ……。『築巢人』(A Rolling Stone)。秋香(Chiu-Hsiang: 女性の名前)。「一首搖滾上月球」(Rock Me to The Moon)。

\*